



信州発 ⇒

“ずく”出して、世界への
はじめての一步 イマ・ココから

2018
春号

No.55

2018.4.1

JICA駒ヶ根

国際協力



JICA信州国際塾「ヒマラヤ映画祭」、 多数のご来場ありがとうございました!

1月21日(日)、長野市勤労者女性会館しなのきにおいて、ヒマラヤ地域の現状を映像&トークでお伝えし、持続可能な社会を考える企画、JICA信州国際塾「ヒマラヤ映画祭」を開催しました。

予想をはるかに超える約400名の皆様にお越し頂き、大盛況のうち、無事に閉幕いたしました。お座席が足りず、お立見頂いた皆様には深くお詫び申し上げます。パンフレットも足りなくなってしまう、お持ちいただけなかった皆様には大変申し訳なく存じます。



上映したのは、ヒマラヤ地域を舞台にした2本の映画です。

1本目はブータン映画「思いを運ぶ手紙」。

2011年のブータン国王来日以来、ブータンの姿はとかく美しく幻想的に報道されてきました。この映画には、そういった脚色は一切ありません。ありのままの日常を、淡々と描いたこの作品は、ブータンの元協力隊員が、ブータンの空気感を最も忠実に伝えてくれる映画だと、太鼓判を押しています。ちょっと冗長なストーリー展開ですら、ブータンの暮らしを疑似体験できるエッセンスになっていました。

ネパールを舞台にした映画「世界でいちばん美しい村」

は、2015年の大地震で壊滅した村の復興を描いたドキュメンタリーです。人々のたくましさ、神秘的な風習が、日本人の石川梵監督によって描かれていました。この映画を見るために、遠くからお越しくださった方もたくさんいらしたほど、ファンの多い映画です。

幕間には、元JICAネパール事務所長(現JICA駒ヶ根所長)、元JICAブータン事務所長(前JICA駒ヶ根所長、現JICA北陸支部長)が、「持続可能な社会を考える」というテーマでパネルトークを行いました。「映画と生の体験談がセットで聞けたので、より理解が深まった」とおっしゃる方が多数いらっしゃいました。

お二人のプロカメラマンによるネパールとブータンの写真展も、大好評でした!

長野とヒマラヤ、山岳地帯という共通点を持ちながら、なかなか足を運ぶことができない地域ですが、身近に感じていただけたでしょうか?

ご来場いただいた皆様、お手伝いいただいたOB会の皆様、共催して下さった長野県国際化協会の皆様、しなのきの皆様、広報にご協力いただいた皆様に、御礼申し上げます。ありがとうございました!



JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト2017

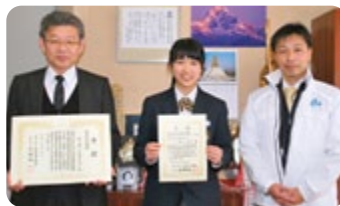
テーマ「世界の人々と共に生きるために～私たちの考えること、出来ること～」

このエッセイコンテストは、次の世代を担う中学生・高校生を対象に、開発途上国の現状や開発途上国と日本との関係について理解を深め、国際社会の中で日本、そして自分たち一人ひとりがどのように行動すべきかを考えることを目的として実施しています。

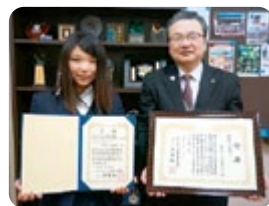
今年で中学生の部は22回、高校生の部は56回を数え、中学生の部38,459点、高校生の部31,685点、総数70,144点もの応募をいただきました。

長野県からは、中学生の部で1,210点、高校生の部で1,643点もの応募があり、個人賞17点、学校賞14校が受賞しました。

来年も、中学、高校生の皆さんの感性豊かな作品が寄せられることを楽しみにしています。



駒ヶ根市立赤穂中学校3年桐山さん、藤澤校長先生



上田高等学校2年中嶋さんと内堀校長先生

受賞者一覧

中学校の部

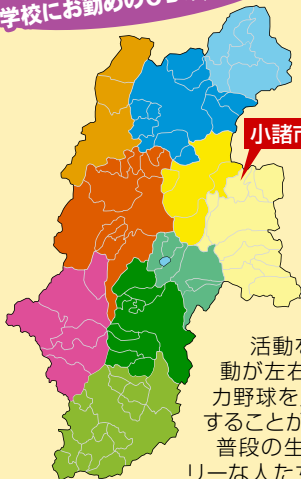
- 所長賞** 駒ヶ根市立赤穂中学校 桐山 朋子「自分を信じて」
佳作 信州大学教育学部附属松本中学校 板敷 明莉「靴の贈り物～私にできる小さな事～」
 信州大学教育学部附属松本中学校 横山 沙綾「私のちっぽけな苦勞が誰かの希望に」
 長野日本大学中学校 岩船 海月「Smile for All in the World」
OB会会長賞 長野日本大学中学校 傳田 愛海「理解すること」 松本市立筑摩野中学校 田中 詩織「本当の美しい地球とは？」
特別学校賞 駒ヶ根市立赤穂中学校
学校賞 上田市立菅平中学校・信州大学教育学部附属長野中学校・長野日本大学中学校・箕輪町立箕輪中学校
 富士見町立富士見中学校・長野市立裾花中学校

高校生の部

- 所長賞** 上田高等学校 中嶋 莉果子「私が見た『現在』、私が見たい『未来』」
佳作 上田高等学校 柳澤 佑汰「身近にできる国際協力」 東京都市大学塩尻高等学校 本郷 春樹「未来へ」
 上田高等学校 田中 風紗音「日本的な現象」過労死」 伊那北高等学校 中村 仁美「行って、見て、確かめて、、、だから考えた事、できる事」
OB会会長賞 佐久長聖高等学校 近常 綾香「私の夢が世界に届くように」 篠ノ井高等学校 與曾井 志穂「今、できること。」
 松川高等学校 矢沢 竜也「世界の人々と共に生きるために」 松川高等学校 飯島 玲菜「障害者差別について」
 松川高等学校 今村 竜之「地球温暖化」 上田高等学校 池田 慎之助「時の流れ～0度の世界に生きる私たちに」
特別学校賞 下伊那農業高等学校・上田高等学校・篠ノ井高等学校・松川高等学校
学校賞 佐久長聖高等学校・東京都市大学塩尻高等学校・長野高等学校

シリーズ 世界から、地域で活躍！信州で活躍する元協力隊員に聞きました！

今回は、現在長野県内の学校にお勤めのOBの方です！



小諸市



小諸市在住
 うるしほら しんや
漆原 伸也さん

平成18年度3次隊
 派遣国：スリランカ
 職種：野球
 出身：小諸市



Q1：協力隊員となったきっかけは？

大学三年生の時に青年海外協力隊をゼミの教授に紹介してもらい、試験を受ける決断をしました。ずっと教員になり、高校野球に携わりたいと思っていたのですが、いざ、卒業が近づいてくると、このまま教員になるよりも、何か他の人にはない経験を積みたいと思ったのがきっかけです。また英語の教員を目指していたため、海外に行きたい、そして、自分が野球を活かしたいと思っていたこともあり、それにマッチしていた協力隊に魅力を感じました。

Q2：派遣国での活動や生活はいかがでしたか？

知らない文化や常識に触れ、いい意味で衝撃的で刺激なことがたくさんありました。

活動をしていく中で、配属先での人間関係や利害関係などに自分の活動が左右されたり、制限されることもありましたが、最終的にはスリランカ野球を良くしたいこうという思いを持った人たちのお陰で、目標を達成することができ、固い絆を築き、野球の発展に大きくつながりました。

普段の生活の中ではスリランカの人たちは、皆いつでも笑顔でフレンドリーな人たちばかりで、困ったときには沢山助けてもらいました。停電や断水、当時は空爆・爆弾テロといった日本では考えられないことがありましたが、大きな経験となり、人間的にも成長するきっかけになりました。

Q3：現在のお仕事について教えてください。

帰国後は教壇に立ち、現在は上田高校で英語の教員をしています。また、自分の特技を活かし、部活は野球部の顧問をしています。生徒に勉強を教えるだけでなく、一番大切なことは、生徒と共に人として大切なことを学び、共に成長することだという思いを持って今の仕事をしています。

Q4：協力隊の経験は今どう活かしていますか？

自分の考えや経験したことに固執過ぎることなく、あらゆる視点から物事を見て、考えることができるようになりました。また、想定外の範囲が格段に広がったため、何かあってもあまり動じなくなりました。

上田高校だけでなく、いくつかの高校で生徒に協力隊で経験したことを話す機会をいただき、自分自身も大きな刺激をもらい、成長につなげることができていると思います。



スリランカナショナルチーム



高校野球指導中

1月26日(金)、2年間の活動を終えたJICAボランティアの帰国報告会を駒ヶ根訓練所で開催しました。

発表者は平成27年度2次隊の中野純平さん(安曇野市出身/パラグアイ/ウエイトリフティング)と平成27年度3次隊の竹内岳さん(長野市出身/キルギス/観光)のお二人で、当日は訓練生27名の他、駒ヶ根協力隊を育てる会からなど、合計で36名の出席がありました。お二人の帰国隊員からは主に2年間の活動の様子について報告があり、帰国後1週間しかたっていない、新鮮なお話に訓練生は聞き入っていました。特にこれから派遣される方に向けての、「語学学習はしっかりと!」「同期の隊員を大切に」というメッセージは心に響いたのではないのでしょうか。お二人が着ていた民族衣装も素敵でした。

次回帰国報告会は2018年4月27日(金)18:30~20:20に駒ヶ根訓練所で実施予定です。訓練生の他にも、多くの一般の方のご参加をお待ちしております。



2/16

3/9

県副知事、県議会報告会



2月16日(金)、長野県庁にて、県職員自主企画海外派遣研修者とJICAボランティア合同の活動報告会が行われました。

本年度に帰国した隊員代表として高橋未来さん(佐久市出身/ペルー/観光)が帰国報告をしました。

また報告会に続いて、3名の帰国隊員が中島副知事を表敬しました。(前述の高橋未来さん、清水愛さん(塩尻市出身/ホンジュラス/小学校教育)、黒田泰斗さん(長野市出身/バヌアツ/小学校教育))

3名は派遣国で経験した学びを、長野県に還元していきたいという抱負を述べ、副知事からも、世界を経験し、広い視野を持った人として活躍してほしいとのことのお言葉をいただきました。

また3月9日(金)には、長野県議会国際協力促進議員連盟によるJICA駒ヶ根帰国隊員活動事例報告会が行われ、本年度帰国した以下2名の方が、約30名の長野県議会議員の皆様の前で活動報告をしました。

下倉葵さん(長野市出身/ウガンダ/小学校教育)

竹内岳さん(長野市出身/キルギス/観光)

発表後に、何人かの議員の方がお話に来てくださり、関心を示してくださいました。県議会の皆さまがJICAボランティアを応援してくださることは、大変ありがたいことです。

2/25

クロスカルチャーイベント@駒ヶ根

語学訓練の一環で行われる「語学交流会」では、海外からのゲストに来ていただきます。ゲストは国内機関(今回はJICA関西)を通して、研修員が参加されました。

語学交流会の翌日は、クロスカルチャーイベントを実施しました。このイベントは、駒ヶ根のいい所をたくさん味わっていただき、「国際協力の町 駒ヶ根市」を広めようということや、候補者が現在学習に励んでいる其々の訓練言語を用いてより実践的に使用し、ゲストとの交流を深める目的です。

今回は、JICA関西からの研修員(内訳:ソロモン・フィジー・パプアニューギニア・カメルーン・ニジェール・セネガル・マダガスカル・ウズベキスタン・ネパールの9カ国から、計13名)と、現在駒ヶ根訓練所で訓練を行っているボランティア候補者(希望者15名)で開催しました。

イベントは、伊那森パークいちご園での苺狩りや、駒ヶ根ふるさとの家で、竹とんぼ作成を体験しました。昼食には、地元の食材を使用した料理を皆で和気あいあいといただき、日本文化や食文化を通して国際交流を図ることができました。

駒ヶ根市は、季節に応じて様々な表情を持っておりますので、今後も駒ヶ根の素晴らしさを伝えていければと思います。次回は、5月に開催予定です。



草の根技術協力事業

南牧村農家がフィリピンで 技術指導しました

2月上旬、草の根技術協力事業「フィリピン国：安全野菜生産販売技術改善プロジェクト」(提案自治体：南牧村・実施団体：(公社)国際農業者交流協会)の本邦研修受け入れ農家13名がフィリピンの若手農家の農場で技術指導を行いました。

一行はかつての教え子のキャベツ畑で害虫の防除方法や植え付けの間隔などを具体的に指導していました。

若手農家のセルジオさん(キャベツ・白菜を生産)



ベンゲット州のキャベツ畑で指導する南牧村農家の皆さん

は、「まるで自分の親のように心配してくれているので、早く一人前になって安心させたい」と意欲的でした。南牧村でキャベツ・白菜を生産している今井瑞穂さんは「我々の技術指導がフィリピンに根付いていることが嬉しい。もう少しで高品質農産物が出来るはずだ、がんばれ。」とおみやげのチョコレートを手渡し

ながら若手生産者を激励していました。

日本の農業高校の教授法が ネパールで実践されました!

3月上旬、草の根技術協力事業「ネパール国：農業高校の教育強化プロジェクト」(実施団体：信州大学)の対象地にあるコバン農業高校で、日本の農業高校の体験型授業が実践されました。この地域で栽培されている豆を生徒の手に取らせ、実際の重さや色、形などを実感してもらい、種類の違いを確認しました。

昨年、南箕輪村の上伊那農業高校を視察したコバン農業高校校長のティカラム・シャルマ氏は、「日本の農業高校の実習主体の授業は素晴らしい、ネパール



実際に生徒の手に取らせ、色や形、重さなどを実感してもらう授業

農業高校でも、卒業した段階で即戦力となる人材を輩出できれば、我々の地域も変わるはずだ」と意気込みを語りました。生徒のひとりには、「教科書だけの授業よりもわかりやすいし、何より楽しい! 将来は農業分野で地元へ貢献したい」と話してくれました。

今後は、体験型授業のやり方を現地の先生方に広めていきます。

JICA長野デスクの窓から♪

国際協力推進員、交代します

長野デスクの国際協力推進員、榎本です。2015年3月にデスクに着任し、3年間、JICAの窓口を務めてまいりましたが、3月8日をもって推進員の任期を終えることになりました。



楽しいことや大変なこと、色々ありましたが、一番の思い出は熱意を持った先生や学生さんとの交流です。特にJICAとSGH事業で連携下さった上田高校、長野高校の皆様には、この場をお借りして深く感謝申し上げます。

2016年度には、長野県内外の先生方と深い学びを求めてモンゴルへ研修にも行かせていただきました。

世界を見て日本を見るという「鳥の目・虫の目」の往復視点は、人間を大きく深くさせるのだなあと思います。

沢山の皆様と貴重な経験を分け合ってくれましたこと、本当にありがたいことでした。私が協力隊として派遣されていたブータンの言葉で、「運命」は「カルマ」と言います。今、カルマに導かれ新しい道を見いだせたことに感謝の気持ちでいっぱいです。これからもカルマに身を任せつつ、世界を見つめ続けていきたいと思っています。

新着任の竹内岳推進員は、今年の1月に帰国したばかりです! 湯気の出ているうちに、熱いお話をぜひお聞きください。これからもJICAをどうぞよろしくお願いいたします!





「Dansa ka?(ダンスするの?)」いつもティモール人に聞かれる言葉。

私は主に学校で体育授業の普及に携わっていますが、大好きなダンスも地域住民に指導しています。基本的な身体運動を知らない彼らにとっては、腕や首を回すことも難しいようで、ダンスの振りを作ったり、指導したりするのは一苦労です。しかし、初めはたった1人しか集ま

らなかった子どもが、今では子どもから大人まで総勢100名ほどになり、地域イベントでもダンスを披露するまでになりました。

何よりも踊っている時、彼らが笑顔であることを嬉しく思います。うまくできなくてもいいのです!しかし、挑戦や継続、努力の大切さはしつこく指導しています。

その結果、最近では自主練習をする子どもたちが増えました。諦めることが多かった彼らにとって、非常に大きな成長であるだけに感極まりました。

他にも長野県岩村田高校と配属校のネットを通じた交流を行い、笑顔いっぱい互いの文化に触れ合いました。彼らの視野が広がり、そして生きがいを感じてもらえるような活動ができればなと思っています。



岩村田高校と交流する生徒たち



スポーツ大会後の生徒と私

帰国したJICAボランティアの方

2年間の活動
お疲れ様でした!!



平成27年度3次隊

したくら
下倉

あおい
葵さん (長野市)

●派遣国: ウガンダ
●職種: 小学校教育



100玉そろばんを使って算数の授業をしているところ

私は小学校教育という職種で、2年間ウガンダという国で活動させていただきました。ウガンダの首都より北に1時間程行ったところにあるボンボという町で、現地教員と共に算数と体育の授業を支援してきました。ウガンダと日本の教育制度は異なっており、小学校教員の地位の低さや教員のチョーク&トーク一辺倒の指導方法などが私を苦しめました。私の新しい授業方法に賛成はしてくれるのですが、現地教員自身がそれを

実践することには結び付きづらい現状が続きました。そこで、現地教員の立場に立って物事を考え、どのようにしていけば、現地教員に浸透していくのかを考え活動するようにしました。そこから教員達の態度も変わっていき、共に授業の内容を考え、「協働」ということが増えました。教員が楽しそうだと子ども達も楽しそうに授業を受けてくれ、相乗効果だなと感じました。この2年間、活動始めは不安でしたが、粘り強く自分の信じた事を続けていくことの大切さ、考え方の柔軟性を学んだ気がします。今後はこの経験を多くの人に伝えていきたいと思っています。



子ども達の笑顔がはじける体育の授業



現地教員へ指導技術を伝えていくワークショップ



信州発、国際医療支援フレーズ集 データ公開

2015年度に青年海外協力隊発足50周年を記念し、JICA駒ヶ根と佐久総合病院とが協力して、途上国における災害時の日本政府による国際緊急援助活動や、現地在住日本人、本邦在住外国人の医療機関受診の支援を目的とした「信州発、国際医療支援フレーズ集」を作成しました。

これまで、原則依頼のあった方のみ同フレーズ集のデータを提供する形でしたが、この度、利用者の利便性をより高め、活用の幅をより広げていくことを目的に同フレーズ集のデータをJICA駒ヶ根ホームページで公開することとなりました。より多くの皆様にご活用いただけるよう願っております。

問診、身体診察、検査指示、診断、処方といった場面ごとに頻用する医療フレーズをまとめ、ネパール語、シンハラ語(スリランカ)、ベンガル語(バングラデシュ)版の3言語で作成しました。200以上のフレーズに加え、「熱はありますか」「レントゲン検査が必要です」「点滴が必要です」等の特によく遭遇する場面を30ほど取り上げ、イラストを加えて字が読めない方にも対応できるよう工夫しました。

医療通訳の数が不十分な混乱した現場での診療の流れをスムーズにする効果が期待できます。また被災者に対し母国語で接することで、安心感や、救援チームに対する信頼にも繋がるのではないかと、「コトバの力」にも期待をしております。

尚、フレーズ集の作成を行ったJA長野厚生連 佐久総合病院及び独立行政法人国際協力機構 駒ヶ根青年海外協力隊訓練所は、利用者が本フレーズ集を用いた結果生じた損害について何ら責任を負うものではございません。また本フレーズ集を無断で転載、改変する事を禁じます。



Information

派遣前訓練公開講座

参加は無料ですが、事前にお申込が必要です。

▶ 局長講話

内容：JICAボランティア事業の理念と目標
 4月18日(水) 15:10～16:00
 定員：10名 講師：青年海外協力隊事務局 局長

▶ 地球のステージ(コンサート)

内容：途上国で巡り合った人々との交流を映像と音楽そして語りで表現する「映像と音楽のシンクロ」ステージ。貧困生活の現状や紛争地域の子供たちの明るくたくましい姿などを映し出しながら、桑山氏自身の経験、ボランティア観を表現する。
 4月18日(水) 19:10～21:00
 定員：20名 講師：桑山紀彦氏(地球のステージ事務局)

公開講座とは・・・JICAボランティアの派遣前訓練で実施している各種講座を一般の方にも公開しているものです。会場はすべて駒ヶ根青年海外協力隊訓練所です。

▶ JICA事業概要

内容：JICAの目的・機構・歩み・現状などの事業概要
 4月23日(月) 13:00～13:50
 定員：10名 講師：青年海外協力隊事務局 職員

▶ 映画「クロスロード」上映会

内容：カメラマン助手になったものの、目標の見えない日々を過ごしていた沢田(黒木啓司)は、自分を変えようと青年海外協力隊に飛び込むが…
 5月7日(月) 19:10～21:00
 定員：20名

▶ 国際関係と日本の国際協力

内容：日本の援助の歴史、概略、現状を理解する。
 5月9日(水) 15:10～17:00
 定員：10名 講師：廣野良吉氏(成蹊大学 名誉教授)

※講師の都合等で実施日が変更になる場合がありますので、ホームページでご確認ください。

ホームページ <https://www.jica.go.jp/komagane/event/index.html>

2017年度4次隊(2名)

長野県出身新ボランティア

行ってきます!!

青年海外協力隊



はやし **林 まどか** さん(駒ヶ根市) 派遣国：ネパール 職種：交通安全

駒ヶ根市の国際協力友好都市ボカラレクナート市へ行きます。ずっと大好きだったネパールで、大好きな乗り物に関わるの活動ができるなんて夢のようです。ネパールの人が乗り物で笑顔になってくれたら嬉しいです。



あらい **新井 ひかり** さん(駒ヶ根市) 派遣国：ケニア 職種：栄養士

昔から食べる事が好きで、初めてみる食材やどんな味が想像のつかない料理に出会うと食べ物はにげられないませんでした。学生時代に、食べ物で人の命を救えるという衝撃的な出会いから、この栄養士という職種を選びました。これから出会う、新たな食や人々との化学反応が楽しみです!

新スタッフ



国際協力推進員(JICA長野デスク) **竹内 岳**

皆さんはじめまして!2月8日にJICA長野デスク国際協力推進員に着任いたしました竹内岳と申します。2015年度3次隊でキルギス共和国に派遣されておりました。故郷である長野で国際協力に携わるご縁をいただけたことに感謝し、邁進していきます。県庁東庁舎にある長野デスクにもお気軽に遊びに来て下さい!



ボランティア事業理解促進担当 **小川 美沙**

3月末からJICA駒ヶ根で勤務しております。訓練生以来の駒ヶ根訓練所は、自身を初心に返らせてくれる場所だと感じています。皆様と関わりながら、より多くの方々にボランティア事業への興味・関心を持っていただけるように努めて参りたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。



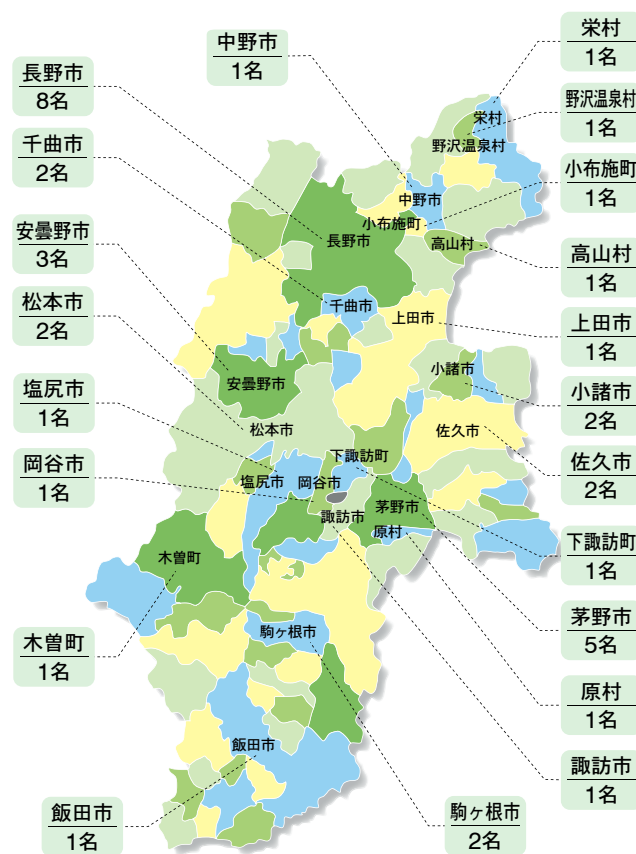
国内協力員 **武澤 良平**

3月から駒ヶ根訓練所で勤務しております。主にJICAボランティアの語学訓練を担当しております。平成26年度4次隊のコミュニティ開発の職種で西アフリカのベナン共和国に派遣されておりました。どうぞよろしくお願い致します。

派遣中JICAボランティア

(平成30年3月31日現在)

※各地方自治体へ表敬訪問をした人数=JICAボランティアの数としています。



長野県関係者 JICAボランティア派遣実績

平成30年2月28日現在

①青年海外協力隊員	③日系社会青年ボランティア
派遣中 46名	派遣中 2名
累計 1010名	累計 27名
②シニア海外ボランティア	④日系社会シニアボランティア
派遣中 3名	派遣中 0名
累計 80名	累計 5名

発行 独立行政法人 国際協力機構
 駒ヶ根青年海外協力隊訓練所

〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂15
 TEL.0265-82-6151(代) FAX.0265-82-5336
 E-mail jicakjv@jica.go.jp
<https://www.jica.go.jp/komagane/index.html>

JICA駒ヶ根 facebook ページを開設!

<https://www.facebook.com/jicakomagane>

JICA駒ヶ根 メールマガジン

☑ 配信希望の方は jicakjv@jica.go.jp

までメールでご連絡ください!

JICA駒ヶ根では毎月1回メールマガジンを配信しています。県内の国際協力に関する動きやイベントなど、耳よりな情報をリアルタイムでお届けします。